



CHALLENGER

[挑戦者たち] ⑤



氷 hyou ノ no sen 山

兵庫県下最高峰、聖なる山・氷ノ山^{ひょうのせん}。豊かな自然環境が残る動植物の楽園に、突如突きつけられた時代のつねり。但馬の自然を愛する人々が立ち上がる。

県下最高峰・氷ノ山

兵庫県下の最高峰、氷ノ山^{ひょうのせん}（標高1510メートル）。中国山地の中でも、鳥取県の大山^{だいざん}に次ぐ高さをもつ山である。

周囲を1000メートル級の山々に囲まれているので、それほど高さを感じさせない。それでいて、山頂に立つと雄大で、数多くの登山者を魅了してきた山だ。単独行のパイオニアとして知られる浜坂町出身の登山家・加藤文太郎も、兵庫アルプスと称し路破している。

氷ノ山に一般登山者が入山をするようになったのは、大正末期に、京大山岳部と神戸のロッククライミングクラブが登ったのが最初。昭和12年頃には鉢伏高原と並び、スキー登山のメッカとして最盛期を迎える。

当時の氷ノ山はブナやミズナラのうっそうとした自然林でおおわれ、様々な植物が生い茂り、各所に昔の原形をとどめていた。広葉樹の自然林は自然の豊かさを計るバロメーターともいわれ、空中湿度が高く、樹々の間には地衣植物・サルオガセが垂れ下がるなど生物は恩恵を受けてきた。広葉樹が生い茂る山肌は、落ち葉や枯れ木に微生物が繁殖して植物の栄養源となり、その隙間に雨水が蓄えられて清流となる。

また、保水力のある広葉樹下の地層は突然の集中豪雨にも耐えることができ、河川流域に住む人々を水害から守る役割も果たしていた。

人の手が入ることはほとんどなく、安定した生態系が保たれ、まさに動植物の宝庫。ツキノウグマから小動物、国の天然記念物のイヌワシか

効率よく食べておいしいものをつくりたい



国際トレード・コンテスト
金賞受賞



ハム工房

但馬の郷

兵庫県出石郡出石町鉄砲19-1
TEL.0796-52-2111 FAX.0796-52-3277
<http://www.tajimanosato.co.jp/>

お中元に
どうぞ



国際トレード・
コンテスト受賞セット 5,000円



残雪が残る昭和47年5月下旬、標高1200メートル付近のブナ古木林を横切る林道。
現在、この木々は立ち枯れ状態になっている。



北東から見た氷ノ山の険しい表情

ら小鳥に至るまでが共存する豊かな地、それが氷ノ山だった。

また、頂上から道のり約300メートル下った場所には、氷河期時代の貴重な植物が生き残る古生沼澤(こせいぬま)天然記念物(その周辺には天然のアシウスギと呼ばれる古木からなる古干本・干本杉の湿性植物群落(湿性天然記念物)がある。そして林辺の湿地には、現在では絶滅の恐れがある植物が自生している。

氷ノ山には、ブナ林を中心とした自然界のしくみを解き明かすための豊富な資料があり、それが永遠に存在するものと思っていた。

この母なる山に、開発という時代の波が押し寄せていることを、この時誰も知るよしがなかった。

時代の波が押し寄せる

「9000円だった給料が、翌年には12000円にあがった」昭和30年代後半、所得倍増計画の下、給料は右肩あがりにはね上がった。時代は高度経済成長期、物資的豊かさが満たされる中、日本中が開発という熱にうなされてきた。当然、氷ノ山にも森林開発の目が向けられる。バルブ材の需要に答えるべく、その多くが伐採され姿を消した、氷ノ山のブナ自然林。その跡地は林業効

率のよいスギヤヒノキの人工植林地に変わった。

「開発には林道の整備が急務…」昭和41年8月、但馬山岳スカイラインの計画が発表される。これは、国道29号(波賀町)と9号(村岡町)を山越えて結び、当時、全国で建設されていた大幹線基幹林道だった。第一次予定ルートは、標高1300メートルの高地に設定される。

「本当にこんな高所に林道が必要なのか」地元住民の間でも疑問の声があがる。

林道にはもつひとつ別の役割があった。それは観光道路としての役割。高度経済成長は国民の家計にゆとりを与え、都市部では余暇をどう過ごすかが話題の中心となりつつあった。レジャー時代の幕開け。自動車の特権階級の乗り物から、庶民の足としてもてはやされるようになり、人々の視線は自然と観光へと向く。実際に各地でスカイラインと呼ばれる林道が造られ、多くの観光客で賑わうようになっていた。

このまま「開発」という時代の波に押し流されてしまうのか。氷ノ山の恩恵を受けてきた誰しもに不安がよぎった。当時、高校の生物教師だった前田常雄も現状を憂うそのひとりであった。

これで
あなたの子どもも
発明王!

**学校教材が
個人でも
お買い求め
できます**

マリヤ医科興業株式会社

お気軽にお問い合わせください

兵庫県豊岡市寿町10-10 TEL.0796-22-6155 定休日 日・祝



直径1メートル以上のブナの古木が並ぶ

ごまかしのない世界

前田は初春にもかかわらず、いまだ残雪とどまる氷ノ山にいた。休日になると、但馬の山野を歩き、標本採取と記録集積に奔走する日々。

「正直に接すれば、正直に返してくれる」動植物のごまかしのない世界が好きだった。何万年という時間の流れの中で、氷河期の植物たちが生き抜いてきた環境を失うという現実にいてもたってもいられなかった。

氷ノ山の植物調査は、昭和初期の牧野博士以来、多くの専門家によって行われてきたとはいえ、広大な山地には未調査の場所もまだ多い。どうしても自分の足で確かめられなかった。

前田は山麓に住む、ある古老の言葉を思い出していた。

「氷ノ山は古くから信仰の山で、昔は山頂付近に須賀の宮神社の祠があった。それは今、鳥取県春米集落と養父市大屋町の横行溪谷に移されて大事に祀られている」

地元の人々は氷ノ山に畏敬の念をもっており、手を加えることを恐れてさえた。そのため、ブナなどの自然林は太古のまま保たれ、その豊かな環境の下に多くの生物が生息していたのだ。前田はなんとしてもこの環境を守りたいと考えていた。

一歩ずつ、一歩ずつ慎重に調査しながら、険しい山道を登っていく。当時、氷ノ山は、現在のように気軽に登山が楽しめる山ではなく、遭難もありえる恐ろしさも隠しもっていた。しかし、そうした前田を始めとする生物学者たちの地道な調査は、やがて地元住民とともに大きなうねりを生むこととなる。

立ち上がる住民

心ある地元住民の願いと生物学者たちの調査により、氷ノ山に対する自然保護の運動は高まりをみせつつあった。さらに昭和45年、この運動に拍車をかける出来事が起こる。

林道の予定ルートで、常緑性シダ植物、ミヤマシガシラ^{ミヤマシガシラ}の自生を確認。確認したのは、あの前田だった。

これは全国で4カ所目となる自生地^{自生地}で、まだまだ氷ノ山には貴重な植物があることを示す大きな成果だった。こうした稀少植物の確認により、林道ルートの変更を余儀なくされる工事当局。さらにこのことは、住民に氷ノ山の素晴らしさを思い起こさせるきっかけともなる。

不屈の精神

各地でのろしがあがった林道反対運動により、昭和48年、遂に当局は

2004 但馬“牛まつり”

造型物のコンテスト&パレード

場所
 県立但馬牧場公園
 (美方郡温泉町丹土)

但馬牛をイメージした造型物大集合!
賞金総額 230万円!!

あなたもステキな但馬牛を造ってみませんか?
 但馬牛のファッションショー
 但馬ビーフの特別料理コーナー
 花嫁行列、子どもまつりパレード、牛絵画展、
 ステージ演技、動物ふれあいコーナーなど

参加者募集

参加賞
 5万円

楽しいイベントだよ!



9月26日
 10時~16時

26日
 酒まつり
 同時開催

問い合わせ先
 温泉町役場企画観光課 TEL.0796-92-1131 <http://www.onsencho.com/>

北海道や本州中北部の高層湿原では普通に見られるヤチスゲ。西日本では唯一氷ノ山のみ残存している貴重な植物。



兵庫県では氷ノ山だけ、西日本でもここだけに残ると考えられているエゾリンドウ



初夏に白花を一輪付けるツマトリソウ。兵庫県下では氷ノ山山頂付近にわずかにだけ見られ、分布の西限とされている。



樹高わずか10センチのアカモノ。初夏に1個の花を付ける。



乾燥化が進んでいる「古生沼の高地湿原植物群落」



氷ノ山山頂・古生沼の上部に設置されたトイレ付き休憩所



昭和40年代当時はロープを張り道なき場所を調査して回った



工事を中断、氷ノ山ルート的大幅変更を決定した。さらにルート変更のみならず、新ルート沿線の総合的調査も要求。その後、工事当局は5度もルート案を提案するが、その都度、イヌワシ・フナ林の保護のため、断固として要求を拒んだ。そうした声に耳を傾げざるを得なくなる工事当局。これは住民運動の成果である。

この頃、あの前田常雄も工事当局の依頼を受け、専門調査員として氷ノ山の7合目付近の断崖絶壁を探索している。反対運動派も納得できる人物、そして、誰よりも氷ノ山を知る男としての選任だった。

前田は急斜面が続く約3キロに渡る岩肌の調査を開始。標高950〜1050メートルの絶壁を、上から下まで岩壁にしがみつきながら、まなく調べて回った。おかげで3日間

もかかったが、その調査でも数種類の貴重な植物を確認。氷ノ山の自然環境を守ることに貢献している。

未来への提言

粘り強い交渉により、第5次案まで提出させた大幹線基幹林道は、結局、昭和63年に全面開通する。

自然保護団体が掲げたフナ林を避けるという目標は断たれたが、当初の予定から大幅に高度を下げさせ、古生沼、古千本・千本杉、ミヤマシシガシラなどの稀少植物が生きる環境を守ることができた。開発一辺倒だった時代において、これは特筆すべきことである。但馬人の反骨精神が生んだ結果といえるだろう。

しかしながら、現代も山頂部に浄化槽を埋め込んだ水洗トイレの設置や、遭難救助用ヘリポートの建設予定など自然保護をめぐる問題は絶

えない。

今も但馬各地の山々を飛び回っている前田はこう語る。

「但馬の自然が豊かだと言っ人は多いがこの言葉には実態が伴っていないと感じています。自然と人間生活の棲み分けが必要です。但馬山岳地帯は、スギなどの人工林が山頂まで進み、地表は裸地化しています。但馬の活性化は森づくり。若者たちの視線がこのような森づくりに注がれるよう、今後も但馬の山河の探索調査を続けたいと思っています」

都会では今日も次々に山が死んでいる。そんな都会に比べ、古きよき原風景がはるかに残る但馬の地。その美しい風景は、自然を守るための大切さを私たちに教えてくれる。

協力：園田学園女子大学大岡山G・C所長 南但馬の自然を考える会代表・前田常雄さん
参考文献：自然保護事典1

お申し込み受付中

イルカにふれてみよう

バックヤードツアー

1日5名限定・13時スタート



イルカ・アシカのふれあい
「シーポリス・アカデミー」

6/1

スタート



今年も変わります

イルカ・アシカショー



城崎マリンワールド

<http://www.marine-world.jp>